

## 第1回保護者会資料「令和7年度の学校経営方針について」

新1年生166名を迎えて全校児童967名で新学期がスタートしました。新しい季節のはじまりに、子どもたちは胸を膨らませていることでしょう。子ども一人ひとりが自ら学び育つよう、日々の教育活動を充実させていきます。教職員一同、よりよい学校にしていくため心を合わせて尽力します。本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。以下、今年度の学校経営方針について述べます。

## 1 学校経営の基本理念

## (1) めざす学校像（経営方針）

## 本校の教育目標

- 考え深い子ども 自ら学び、よく考え判断し、協働することで学びを深める子ども
- やさしい子ども 多様性を認め、人や自然を敬い、助け合う子ども
- たくましい子ども 心身共にたくましく、やり遂げようとする子ども

教育は信頼から

「子どもが自ら学び、育つ学校」

～子ども一人ひとりが学習を自分事として捉え、学びがいや喜びを感じ、よりよく育つ学校～

## 「子ども観」

- ・子どもはよくなろうとしている。
- ・子どもは本来能動的な学習者である。
- ・子どもは自ら探究し内から育つ力をもつ。

## 「授業観」※教育の質の転換

- ・学習の主体者は子どもである。
- ・子どもの事実に立つ。
- ・子どもと共に創る授業。

## 世田谷区教育振興基本計画

## 5. 教育目標

## 共に学び、共に育つ上で大切にしたいこと

自分のよさや可能性を感じる

違いを認め、思いやり、学び合う

社会の創り手として行動する

## 幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育

教育目標  
幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育

## 4つの基本方針

新しい知を創造する

地球の一員として行動する

多様性を受け入れ自分らしく生きる

共に学び成長し続ける

子どもも大人も、違いを認め合いながら自分らしく生きていくことが大切です。自分の可能性を感じ将来に希望を持ち、家族や友だち、周りの人たちの幸せを願い、自分の身近な暮らしから日本や世界をよくしていきたいと思えること、この「日本社会に根差したウェルビーイング」の考え方が礎になります。

このためには、一人ひとりの学びが尊重されることを基本とし、多様な学びの中から、自分で判断し、選択することが重要です。また、多様な他者とともに協働・協力して問題の発見や解決に挑むことも重要になります。他者との協働の中で、気付きや目標を持ち自分の力が生かされることを実感することが更なる活動の原動力になります。

子どもも大人も一人ひとりが学びの主体となり、自分の人生をデザインしながら自分らしく学ぶことが全ての学びの基盤となります。

予測困難な時代においても、それぞれが思い描く未来を自分らしく生きるために、自らが課題に向き合い、判断して行動できるよう、「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」を教育目標に掲げ推進します。

## 実施計画（行動計画）



(世田谷区教育振興基本計画より)

## (2) はじめに子どもありき

全ての教育活動の根底にある理念は「はじめに子どもありき」です。「はじめに子どもありき」とは、子どもが何を感じ考え、どうしたいのか、何に困っているのか、どのように学んでいくのかという一人ひとりの事実を明らかにして、それに基づいて教育活動を行っていくことです。「学ばせる」のではなく、子ども自らがすすんで「学ぶ」ために、教師は指導・支援をしていきます。本校の教職員は、日常の教育活動において使役動詞「～せる」「～させる」は使わないことを心掛けています。

「子どもはよくなろうとしている」「子どもは本来能動的な学習者である」という「子ども観」に立ち、「学習の主体者は子どもである」「子どもの事実に立つ」という「授業観」をもって、子どもと共に創る授業を展開していきます。また、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、共に連携して子どもたちのためによりよい教育活動を行うことが必要です（学校運営委員会、学校関係者評価委員会、PTA、学校支援地域本部、地域町会、おやじの会との連携等）。

ウェルビーイングの視点を大切にし、「みんなも幸せ、自分も幸せ」という幸せや生きがいの実現に向けた教育を実践していきます。これには教職員も含みます。教職員が幸せに働いていることが、子どもたちによる影響を与えていくと考えています。よろしくお願ひいたします。

## (3) 学校を魅力的な学びの場にし、学びに向かう力を高めるために

校内研究の推進（世田谷区教育委員会研究指定校 世田谷区小学校教育研究会研究推進校）

主題「自ら学び、育つ子ども～カリキュラム・マネジメントによる『せたがや探究的な学び』の具現化とキャリア・未来デザイン教育の実現～」※令和5年度より研究を継続

生活科・総合的な学習の時間の単元開発を行い、それを軸にカリキュラム・マネジメントで各教科の学びをつなぐことで、学びが本来ひとつのものであることを子どもが実感できるようにしていきたいと考えています。

（※保護者会では研究主題を「自ら学び、内から育つ子ども」とお伝えしましたが、変更が可能であることを確認したため、「自ら学び、育つ子ども」としました。）

## 2 本校の今年度の重点目標

### ① 「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて

○探究的な学びを通して児童が学習を自分事として捉え、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が高まるような指導を行う。「課題を見いだし、把握している」「課題解決の方法を考えている」「協働して学んでいる」「学びを振り返り次につなげている」という「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことで、「せたがや探究的な学び」を推進する。

### ② 教育DXの推進

○一人一台のタブレット端末を学習の基盤ツールとして活用することで、多様な学びの機会を保障する。その際には使い方を自律的にコントロールできるようにする。ICTの活用により、習熟度や学習の進度、興味・関心等、児童の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」、異なる考え方や価値を組み合わせ、探究的な学習や体験的な活動を通した「協働的な学び」の充実を図る。

### ③ 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて

○人権教育を基盤として、互いを尊重し合う心情、自尊心や自信を育成し、自己肯定感を高める。多様性を理解し他者や自然を尊重し、あらゆる差別や偏見をもたず、相手の立場に立って行動できる心情を培う。

### ④ 地域社会と協働した教育の推進に向けて

○キャリア教育につながる生活科・総合的な学習の時間の単元開発をより充実させ、商店街や地域の美術館、専門学校や農業高校と連携した学びを構築していく。子どもたち自身が地域に出向き、そこでの探究的な活動を展開できるような学びを創造していく。地域の役に立つ喜びを子ども一人ひとりが実感できるようにする。

### ⑤ 「学校における働き方改革」の推進に向けて

○創造的余白を生むために、職務の内容を吟味し、長年変わっていない様々な教育活動や職務内容について精査していく。